

# 第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

日 時 令和2年10月14日(水) 第5校時  
 対 象 第3学年1組 30名  
 学校名 立川市立上砂川小学校  
 授業者

**これからの社会を生き抜く 資質・能力の育成  
 ～言語能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの推進～**

1 単元名 立川発見隊「地域安全マップを作ろう」

## 2 単元の目標

子供が通学路等を点検して「犯罪が起りやすい場所」(だれもが「入りやすく」、だれからも「見えにくい」場所)を地図に表す作業を通じ、不審者等の「人」ではなく、犯罪が起りやすい「場所」に着目させる。そして子供の危険予知能力を高め、安全に行動できるようにするとともに、安全安心なまちとは何かを考える。

## 3 単元の評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
①【概念的知識】 地域安全マップの学習を通して、安全や危険について理解している。 ②【技能】 資料収集や目的に合った方法で地域安全マップ作りができる。	①【課題の設定】地域での生活経験と既習の学習をつなげて考え、課題を設定する。 ②【情報の収集】フィールドワークを行い、必要な情報を集め、取捨選択して効果的に活用する。 ③【整理・分析】フィールドワークで得られた情報を比較、分類、関連付け、類推等を通し、情報を多面的にとらえ考える。 ④【まとめ・表現】目的や意図に応じて、効果的に地域安全マップを作製する。	①【コミュニケーション】地域安全マップを作製する中で、身近な人に自分の疑問を伝えたり、相手の話を聞いたりする。 ②【自己を見つめる】フィールドワークや調べたことを基にして、自分にできることは何かを考えて行動する。

## 4 単元の指導計画と評価計画 (9時間扱い)

時	◇指導のねらい	○学習活動 ・内容 ※教材	評価規準
1	◇事前学習① 地域安全マップってなんだろう。 見た目では、良い人、悪い人の判断はできないので、どうしたら犯罪にあわないようにすることができるかを考える。	○危険な場所とはどんな場所かをつかむ。 ・危険な「人」は、見ただけではわからないことを知る。 ・危険な「場所」は、見ただけで分かることを知る。 ※動画教材「景色で学ぼう! 新・地域安全マップづくりDVD」	知識及び技能① 思考力、判断力、表現力等①
2 3	◇事前学習② 地域安全マップをつくる計画を立てよう。フィールドワークを行うためのまわりを考え、計画を立てる。どんな準備をしなければいけないのかを考える。	○フィールドワークのために必要なことを確認し、準備をする。 ・グループ編成をし、役割を分担する。 ・コースを決める。 ・練習をする。	思考力、判断力、表現力等①
4 5	◇フィールドワーク 自分たちの地域について実際に歩いて調査を行い、必要な情報を集め、取捨選択して効果的に活用する。	○フィールドワークをする。 ・「入りやすいか」「見えやすいか」を基準に調査をする。 ・気付いたことをメモし、写真を撮影する。 ・地域の人にインタビューする。	知識及び技能② 思考力、判断力、表現力等② 主体的に学習に取り組む態度①
6 本時	◇フィールドワーク時の写真を、メモやインタビューを基に分類し、安全な場所、危険な場所とは何かを考える。	○分類するスキルを使って写真を分類する。 ・「入りやすい、入りにくい」「見えにくい、見えやすい」という4つの視点で分類する。 ・具体的な言葉を使ってまとめる。	思考力、判断力、表現力等③
7 8 9	◇地域安全マップの作製、発表 作った地域安全マップを用いて、友達に伝える。また、学んだことをどのように生活に生かしたらいいかを考える。	○地域安全マップを作製して、地域の様子を発表する。 ・作製した地域安全マップをもとに、安全な街にするために自分にできることについてまとめる。 ・学習を振り返り、「安全のための注意事項」について知る。	知識及び技能② 思考力、判断力、表現力等④ 主体的に学習に取り組む態度②

## 5 児童観

明るく活発で素直な児童が多く、どの教科も意欲的に取り組んでいる。授業に集中し、自分の意見や考え・思いを発表する児童が多くなってきている。一方、問題が複雑になったり情報量が多くなったりすると何を手掛かりに、どのように考えたらいいのだろうかと迷っている児童もいる。過去の経験と関連付けるなどして何とか解決へと向かえる児童もいるが、多くの児童は自分の意見をもったり考えたりする方法が見付からないままできていることがある。

## 6 教材観

自分の意見をもったり考えたりすることに苦手意識のある児童は、問題をどのように解決していけばいいのか、その手掛かりを見出せない状態になっていることが多い。自分の頭にあることをシンキングツールに書き出すことができるようになれば、自分の思考の具体が自分の目で確認でき、それをフィードバックすることで思考の方法を理解することができるようになる。本教材では、児童の生活圏で撮った写真を、だれもが「入りやすく」、だれからも「見えにくい」場所に分類して図に示し、その分類の根拠を児童に問うことを通して、根拠をもって自分の意見をもつことのできる児童を育成する。

## 7 本時（全9時間中の第6時間目）

### (1) 本時の目標

フィールドワーク時の写真を、メモやインタビューを基に分類し、安全な場所、危険な場所とは何かを考えることができる。

### (2) 本時の展開

	○学習活動 ・予想される児童の反応	☆指導上の留意点 ※準備する物	◆学習活動に即した 具体的な評価規準 (評価方法)
導入 5分	①フィールドワークで撮った写真を分類する視点を確認する。 ・学校は、正門が閉まっているので、誰もが入りにくく安全です。 ・学校の門からは、校庭の様子が良く見えます。誰からも見えやすく安全です。だから、先生は図の右上に貼ったのだと思います。	☆正門と校庭が写っている写真を提示し、教員が、分類するための図の右上に貼る。児童は、教員がなぜこの写真を右上の安全な場所に貼ったのか理由を見付けるように促す。  ※教員用タブレットPC、プロジェクター	<p>※ X軸、Y軸の分類するための図</p>
安全な場所と、きけんな場所とのちがいを考えよう。			
展開 30分	②グループごとに撮った写真を安全な場所、危険な場所に分類する。 X軸に<見えにくい、見えやすい> Y軸に<入りやすい、入りにくい> ・この住宅地には、ごみが落ちていなくて、きれいな花が咲いているため、住んでいる人が地域や人に関心があるので安全だと思います。 ・この公園には、高い木たくさんあって家からは遊んでいる子供の姿が見えにくいから、危険だと思います。 ③発表、質問 ・(質問) 私はこう考えたけれど、どうして、Aの写真は図の右上ではなくて左上なのですか。(答え) なぜかというと…	☆写真を分類する目的は、写真の場所が、どうして安全(危険)な場所なのかと根拠を基に自分の考えをもつことができるようになることである。 ※分類するための図を書いた模造紙 ※フィールドワーク時の写真 ・規準「見えやすさ」「入りやすさ」 ・基準「どの程度」 ☆児童が規準や基準を決めて納得解を見付ける。 ☆分類する時には、規準と基準を意識させてグループで活動するように促す。 ☆他の班の発表を聞いて自分の班にフィードバックし、感じたことを伝え合う。貼った写真の位置を根拠を明らかにして変更することもできることを伝える。	
まとめ 10分	④本時のまとめをする。 ・地域には安全な場所と危険な場所があるので、安全な場所で遊ぶようにします。 ・友達の意見を聞いて、自分は見えやすいので安全だと思っていた場所でも見えにくい危険なこともあることを知りました。	☆本時における「まとめ」とは、自分の主張を構造化することをいう。 ☆まとめを書きづらい児童には、安全・危険な場所とは、実際にはどんな場所だったかを問うようにする。	◆【思考力、判断力、表現力等】 フィールドワークで得られた情報を分類し、情報を多面的に捉え考える。 (発言・ワークシート)

## 8 授業観察の視点

- ・自分の意見に理由を付けてワークシートに書いたり、発言したりしているかどうか。